包括的な学校改善の視点：教員の資質能力の向上

授業改革を推進する学校モデル

中核校	伊達市立伊達小学校	指定校	伊達市立東小学校、伊達市立伊達中学校

■　構築した学校モデルの具体

○　授業観の転換

・学び続ける子を育成するための授業改革として、①個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた複線化授業への移行②授業に位置付ける７つの学習活動の設定③学習指導案の様式の見直し（フレームワークとして子どもと共有化）④単元の目標を達成するための「学習計画表」と自己調整力を向上するための「振り返りシート」の活用⑤短期サイクルでの児童アンケートの実施などに取り組む。

◆実践授業に位置付ける７つの学習活動
①単元をつらぬく問いとゴールを示す
②必要感をもたせ選択させる
③決めさせる
④教える場面と委ねる場面を設定する
⑤学びを自己調整する場面を設定する
⑥日常とつなげる場面を設定する
⑦アウトプット（記述）する場面を設定する

【日常の授業改革に向けて】

○　学級経営から学年経営（学年研修）へのシフトチェンジ

・学年経営を基盤をとして組織的に、①多面的な児童理解と相談体制の充実②学級担任間の授業交換（学年によっては国語・算数を含む）による専科指導を推進し、同じ授業を複数回行うことでの授業の質の向上（指導力向上）、授業準備の効率化（働き方改革）③学年研修として学年のテーマを決め、個人で取り組むとともに学期ごとの振り返りを行う。

【全体研修中の学年協議】

○　胆振教育局、市内小学校との連携強化

・計画訪問の他に、複数回の要請訪問や学習指導案検討時に「たんコミ」を活用し、教育局指導主事からの質疑応答を交えながらの指導・助言による、研修の充実を図る。
・①市内５校の研修部長が集まり、研修の成果や課題の共有、問題解決のために建設的な議論を行う「伊達市ワンチームプロジェクト」、②市内の理科専科教諭が集まり、効果的な授業実践のための交流や実験データ等を共有する「伊達市サイエンスベーシック」の取組により、市内学校の教師力の向上を図る。

■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

【第３学年国語科の複線化の授業】

〔管理職の取組〕

・「校長室だより」による月ごとの学校経営の重点の共通理解を図った。
・育成を目指す資質・能力をおさえた上での自走する研修を推進した。
・学年経営へのシフトチェンジによる当事者意識の強化、心理的安全性の確保を図った。
・初任段階教員の授業力向上プログラムを推進した。

〔実践研修部の取組〕

・学年チーム研修の推進、実践の言語化、共有化で新たな教師の学びを実現した。
・先進校を視察し、その取組を報告会で共有した。
・学び直し月間（７月、11 月、３月）で、主体的な学び直しの実施を推進した。
・学び続ける子を育成するための「子どもが自分で丸付けできるようにする指導」を推進した。
・「伊達市ワンチームプロジェクト」等の取組により、伊達市内の教職員の学び合いの場を設定した。

■　各指定校への学校モデルの普及方策

・地域協議会において、中核校・指定校が取り組んだ効果的な取組事例を交流するとともに、実際に研究授業の参観、事後協議の参加を通して意見交流を図った。
・学校公開において、市内の学校や胆振管内の学校にも研究授業の公開、研究実践の発表を行い、情報共有を図った。